

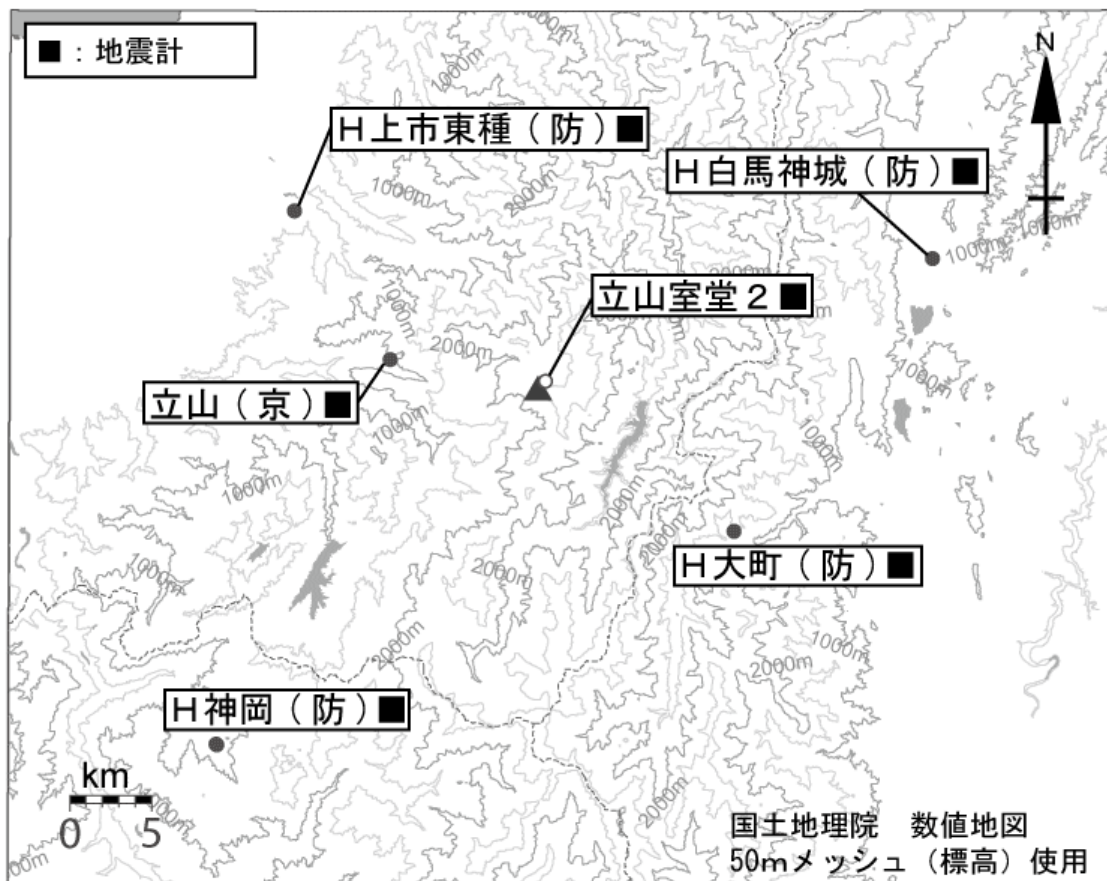
## 弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 26 年 9 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・情報センター

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しました。  
立山地獄谷では以前から熱活動が活発に継続しており、この付近では火山ガスが高濃度になることがありますので、注意してください。  
平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

### 活動概況

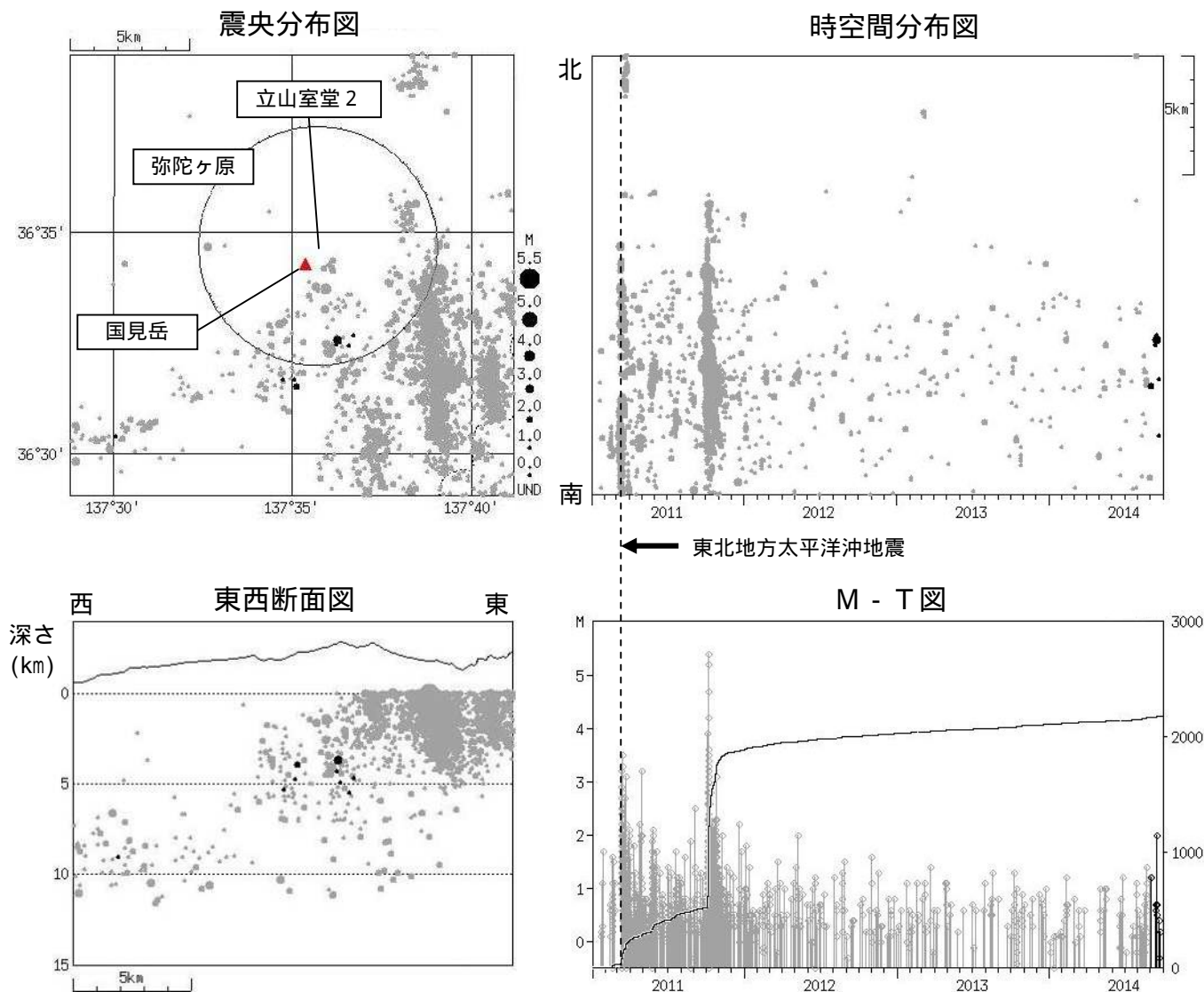
- 地震や微動の発生状況（図 2）  
今期間、火山性地震の発生は少なく、地震活動は低調に経過しました。  
火山性微動は観測されませんでした。
- 噴気・地熱等の状況（図 4～6）  
2～4 日にかけて地獄谷噴気地帯の現地調査を実施しました。地獄谷周辺では、引き続き活発な噴気活動が認められました。特に紺屋橋南東斜面での噴気地帯では噴気活動が前回の現地調査（2013 年 10 月 1 日～4 日）と比べ、活発化していました。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。  
（防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

図 1 弥陀ヶ原 観測点配置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 10 月分）は平成 26 年 11 月 11 日に発表する予定です。  
この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



: 2011 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 8 月 31 日      : 2014 年 9 月 1 日 ~ 9 月 30 日

図 2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動(2011 年 1 月 1 日 ~ 2014 年 9 月 30 日)

- ・ 緑色の点線の円は、立山室堂に設置した地震計(立山室堂 2)で S-P 時間 1 秒以内となるおよその範囲を示します。
- ・ 今期間、周辺の地震活動は低下しながら継続しています。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調な状況で経過しました。
- ・ M (マグニチュード) は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

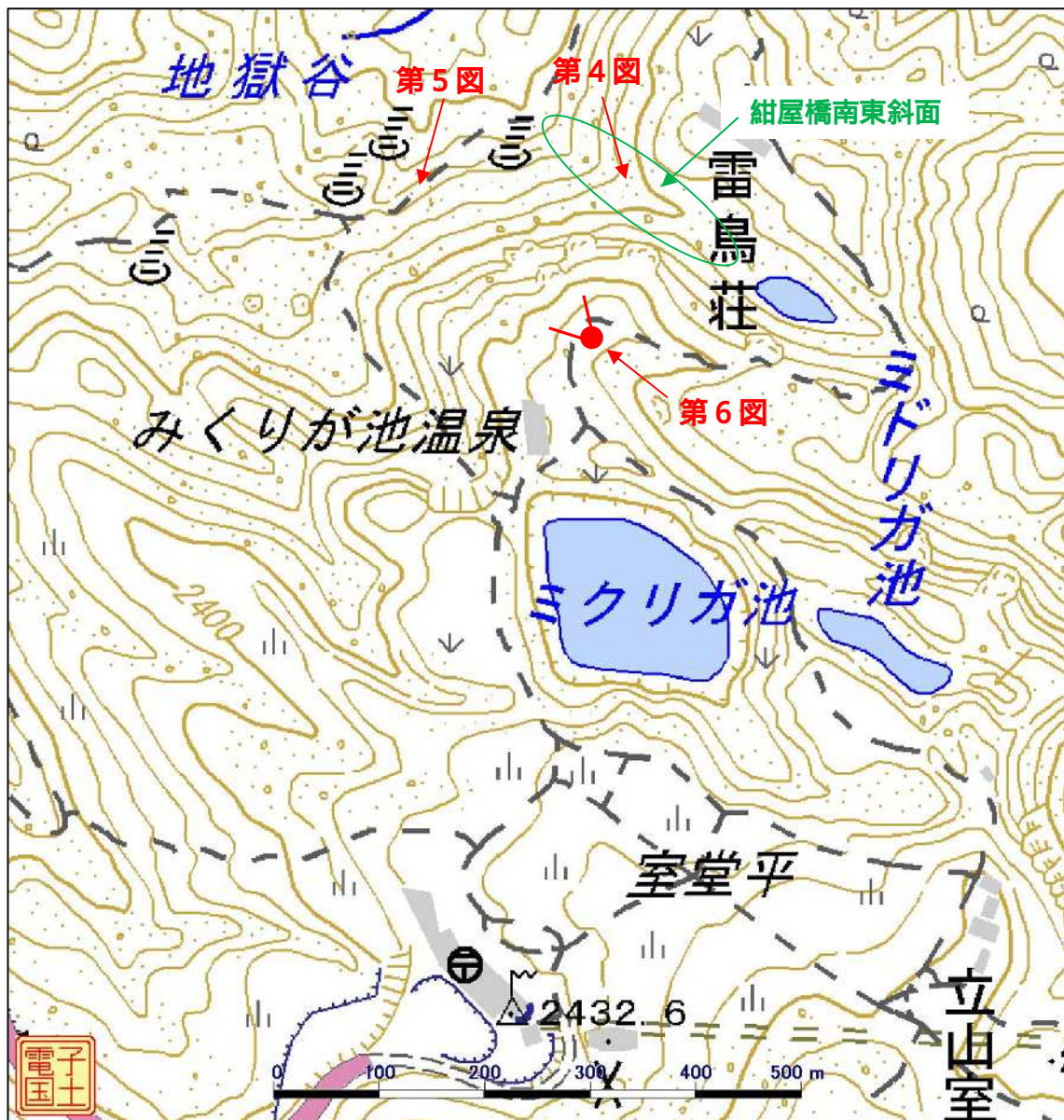


図3 弥陀ヶ原 地獄谷地図

(図4、図5の位置及び図6の撮影位置・方向を示します)

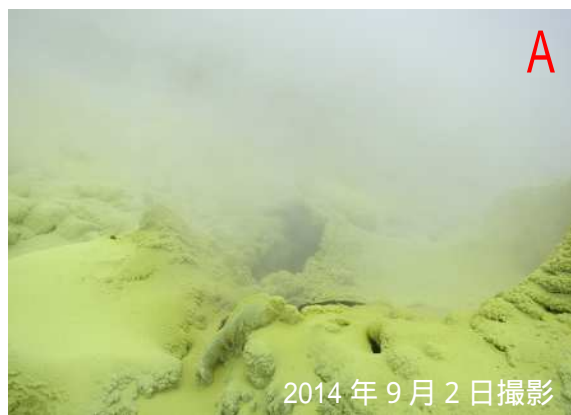
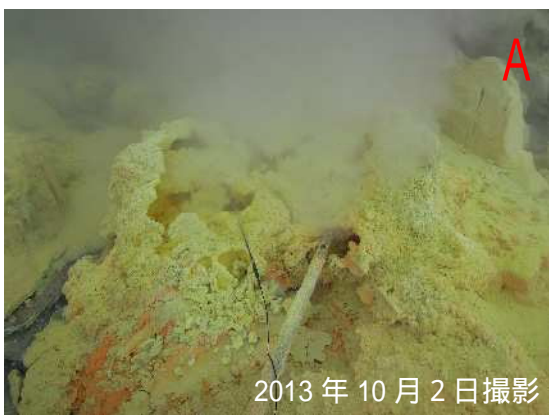
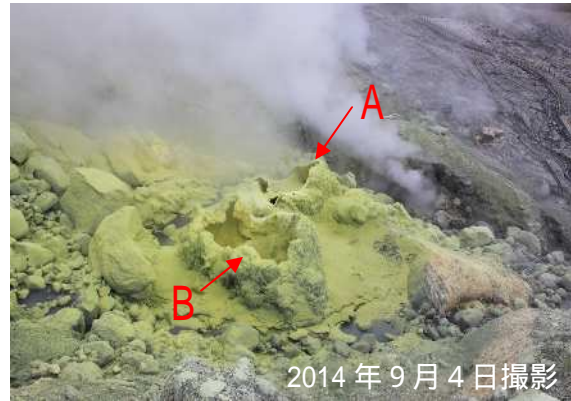


図4 弥陀ヶ原 地獄谷紺屋橋南東斜面の状況

- ・撮影位置は図3を参照 左側が前回調査(2013年7月2日)、右側が今回調査(2014年9月2~4日)
- 上から順に
- ・全景
- ・写真赤○内の噴気孔の様子。二つの噴気孔(A、B)があります。
- ・噴気孔Aの様子
- ・噴気孔Bの様子



図5 弥陀ヶ原 地獄谷遊歩道の状況

- ・撮影位置は図3を参照
- ・上：今回調査(2014年9月4日)
- ・下：前回調査(2013年10月1日)

遊歩道上の陥没した所には、前回の調査に引き続き噴気が出ていました(赤○)。また、前回の調査で確認された新鮮な硫黄昇華物は、今回見られませんでした(白○)。

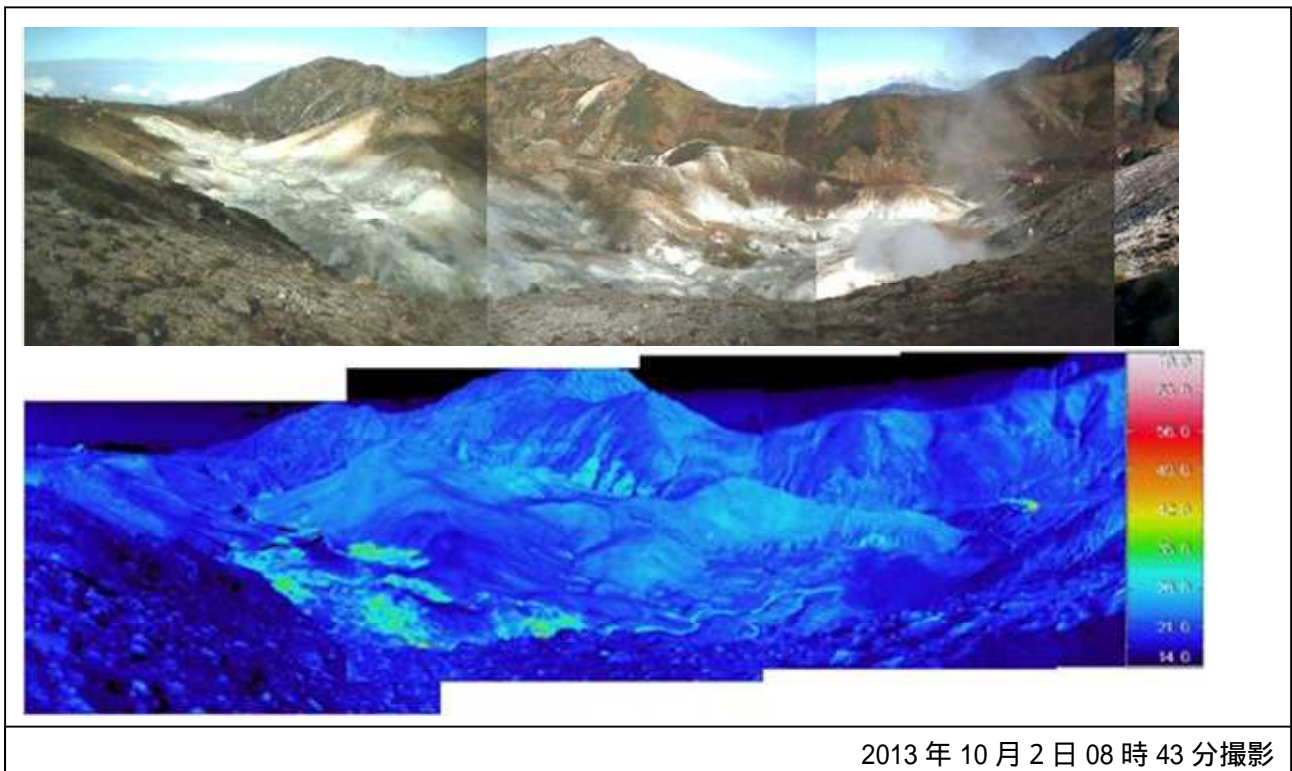
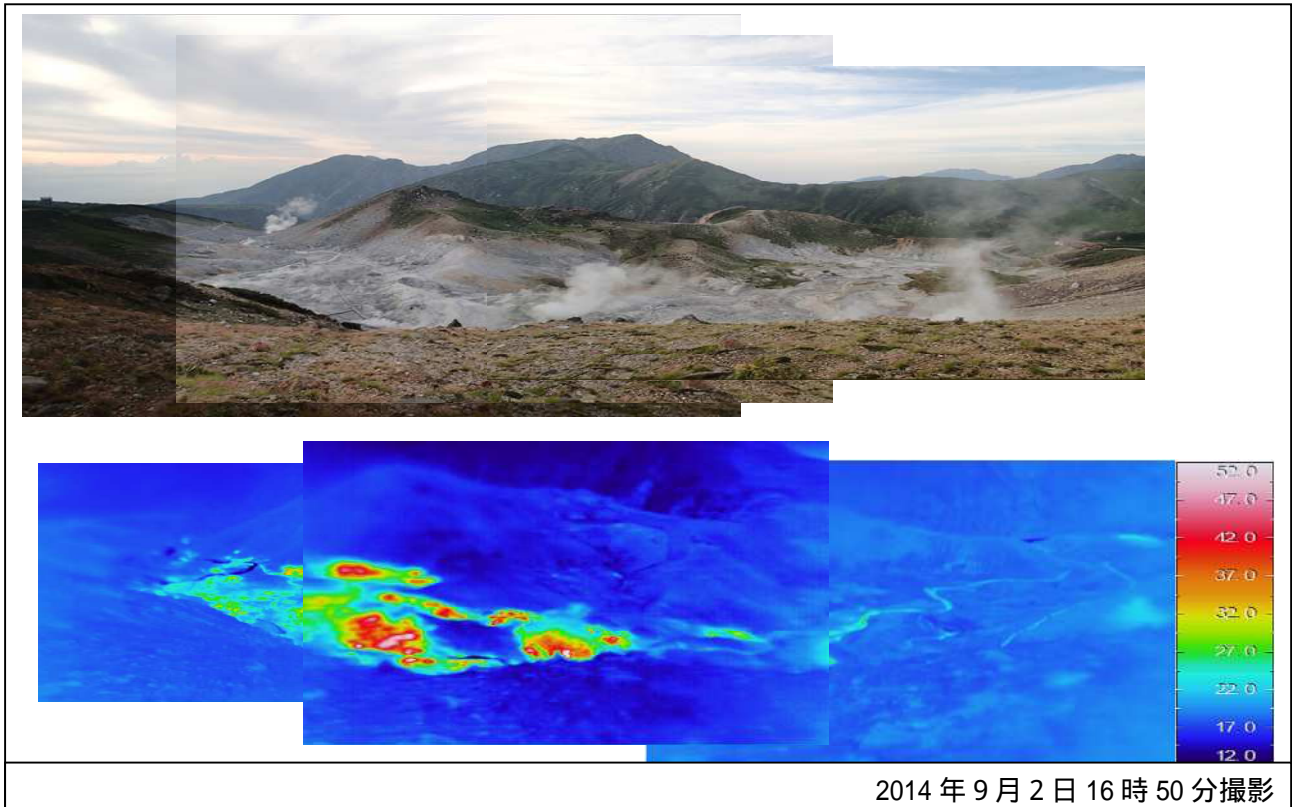


図6 弥陀ヶ原 地獄谷噴気地帯の地表面温度分布

・撮影位置と撮影方向は図3を参照

前回(2013年10月)と今回(2014年9月)の比較では、高温域の分布に特段の変化は認められませんでした。